

令和6年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	39	学校名	東濃高等学校
------	----	-----	--------

学校教育目標 (教育方針)	知・徳・体の調和のとれた将来有為な人材を育成する。	
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら学び、自ら考え、判断し適切な行動ができる生徒 ・ 多様な価値観、個性、文化を認め、互いを尊重して行動できる生徒 ・ 変化する社会に適応して、地域に信頼され、貢献できる生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の実態に合わせた主体的・対話的で深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と授業実践 ・ 多様な価値観や個性を持つ生徒どうしの学校生活を通して、互いを尊重し互いに認めあいながら、自己肯定感を伸長することのできる人間性の育成 ・ 地域や外部と協働し、すべての特別活動、部活動や教科学習を通じて、地域の課題を発見・解決できる「主体的・対話的で深い学び」や「探究的学び」の推進
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣が身に付いており、ルール・マナーが守れる生徒 ・ 多様な価値観を認め合い、他者を尊重して主体的に学べる生徒 ・ 将来、社会的に自立するために、自己の進路実現に向け意欲的に努力することができる生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力の定着に向け、生徒が主体的に学ぶ、「わかる授業」を一層推進する余地がある ・ 教員研修等の充実と生徒情報や指導についての共通理解の徹底 ・ 基本的生活習慣や規範意識だけでなく、社会で生きるためのコミュニケーション能力やソーシャルスキルを身につけさせること ・ 自己肯定感や自己有用感を育てるため、生徒が活躍する場をさらに設けること ・ 半数を超えた「外国につながる生徒」への、キャリア教育を含めた総合的な支援を進めること 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	ICT機器(タブレット)の活用や「ふるさと教育」の推進等により、生徒の「探究的な学び」を支援します
	進路指導	自己理解を進め、自己の在り方生き方を促すキャリア教育を推進します
	生徒指導	多様な価値観を認め、社会に出て自立できる生徒を育てます
	その他	教職員が健康でいきいきと生徒と向き合えるための学校づくりを進めます

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標
学習指導	「授業のユニバーサルデザイン化」や「評価の可視化」により、学習内容や到達目標を明確化し、生徒が主体的に取り組むことのできる授業を実施します。また、ICT機器(タブレット)の積極的活用とともに、生徒の実態に応じた学習内容の精選により、「主体的・対話的で深い学び」を各教科で実践します。	8	施策Ⅱ-8 生徒及び教員による授業評価(肯定的評価70%) 「高校生のための学びの基礎診断」の結果(前年比5%向上) 教員による授業評価(実施回数1回以上)
	「地域探究類型」におけるフィールドワーク活動や、家庭科選択科目での「みたけ華ずし」体験など、地元御嵩町との連携や外部人材の活用により、ふるさと教育を推進し、地域に愛着を持つ「地域社会人」の育成を目指します。	4	施策Ⅰ-4 アンケート実施(生徒の満足度70%)
	全校生徒の半数以上を占める「外国につながる生徒」に対し、学校設定教科「日本語」の開講や支援員の配置により、積極的な学習支援を行います。	22	施策Ⅳ-22 日本語能力を測る検定試験(各個人が前年より上級合格)
	2・3年次で開講している「高等学校における通級による指導」をさらに充実させるとともにし、その手法を他の指導にも汎用できるよう研究を重ねます。	21	施策Ⅳ-21 受講生徒による振り返りシート(各個人の満足度80%)
進路指導	演劇表現ワークショップやキャリア教育プログラムをはじめ、学校生活の様々な場面の中でコミュニケーション能力を培い、他者との望ましい人間関係の構築を促します。	1	施策Ⅰ-1 講師等への意見聴取(肯定的評価の有無) 生徒対象アンケート(肯定的評価70%)
	類型や選択科目により多様な進路希望に応えるとともに、進路ガイドダンス等を通じて自己のキャリア形成を支援します。	23	施策Ⅳ-23 学校評価アンケート(肯定的評価70%)
	御嵩町や国際たくみアカデミー等との連携により、進路目標実現に向けてのスキルの習得を促します。	13	施策Ⅱ-13 連携講座の実施(実施回数10回)
生徒指導	「『あじみ』のできる学校」をキャッチフレーズに、挨拶の励行、時間を守る行動、身なりを正すことに重点を置くとともにマナーの向上を図り、基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を目指します。	19	施策Ⅲ-19 学校関係者評価(肯定的評価70%)
	全職員が共通理解のもと、すべての教育活動を通して「誰もが同じ」で「見逃さない」公平な指導を目指します。	2	施策Ⅰ-2 生徒対象アンケート、挨拶運動に参加した保護者への意見聴取(肯定的評価の有無)
	部活動やボランティア活動を充実して自己肯定感を育てながら、活気ある学校づくりと思いやりあふれる心の育成につなげます。	7	施策Ⅰ-7 ボランティア参加人数(延べ100人以上の参加)
その他	出退勤管理システム等の活用により教職員の適正な勤務時間の管理を行い、過重な勤務状況を把握し、各職員への声かけや指導を徹底します。また、定時退庁日(「早く家庭に帰る日(8のつく日)」や「ノ一残業デー(別途計画)」の徹底や計画的な休暇の取得促進により、教職員の業務の効率化や健康管理への意識を高めます。	27	施策Ⅳ-27 時間外勤務時間が月45時間を超える職員数(前年比50%減→基本目標0人)
	教職員の資質向上を目指し、教職員自らが研修等の機会を積極的に活用し、自己研鑽する中で、幅広い教養と高い専門性をもち、愛情と使命感にあふれる教育者を目指します。	26	施策Ⅳ-26 前年度と同等かそれを越える教職員によるセンター研修の受講 教職員による、センター研修以外の研修や検定への挑戦機会の増加
	ストレスチェックやハラスメント調査を定期的に行うとともに、「HELPが言える職場」であると同時に「HELPに応えられる職場」であるよう、管理職をはじめ職員相互の高い信頼関係に基づいた「同僚性」の高揚に心がけます。	28	施策Ⅳ-28 疲労蓄積度自己診断チェックリスト(総合判定6以上の職員数0人)

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年1月8日

<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援サービス(スタディサプリ)を教員が積極的に活用することにより生徒の基礎学力の伸長を目指すと共に、「分かる授業」「主体的で対話的な深い学びを体現する授業」の研究開発を継続する。 ・入学から卒業後の進路実現まで、3年間の見直しをもったキャリア教育の構築について見直し、改善する。 ・上級学校への進学について、受験前に必要となる費用についての情報を、折に触れて保護者に伝えていく。 ・指導法の工夫によって、日本語履修生への日本語能力向上への学習意欲と実際の能力をこれまで以上に高め、日本語能力を測る検定試験受験者数の受験率および合格者数の増加を目指していく。 ・「高等学校における通級による指導」において、今後も「自走できる」指導手法を目指して研究を重ねていく。 ・遅刻、服装の乱れに対して、職員一人ひとりの共通理解を深め、粘り強い生徒指導に努め、基本的生活習慣の改善を進めていく。 ・人権教育については、折に触れ繰り返し指導をすることで、マナーの向上に努めていく。また、生徒がより相談しやすい体制を整えるとともに、生徒情報を職員間で共有できるようにする。 ・職員一人ひとりの業務の見直しを行い、他の職員で代行できる業務はそれを促し、また計画的に業務を進められるよう配慮し、ライフワークバランスの充実を図っていく。
--

年度末評価(自己評価)			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び教員による授業評価を年2回実施。各教科とも肯定的評価は70%以上を達成。おおむね良好。 ・「高校生のための学びの基礎診断」を年1回実施。学年を経るにつれてやや下降する傾向。 ・地元御嵩町との連携等で、ふるさと教育を推進。生徒の肯定的評価は70%以上を達成。おおむね良好。 ・日本語履修生(2・3年生)の日本語能力を測る検定試験受験者数が大幅に増加。 ・「高等学校における通級による指導」において、毎時間振り返りシートを実施。参加生徒は全員満足度が高い。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレット端末を利用して長期休業期間中課題を新たに配信する事ができ、理解度に応じたフォローアップ課題では約半数の生徒が取り組んだことで、基礎基本の定着につながったと考える。 ○「地域探究類型」「生活類型」に加え「ものづくり類型」でも外部人材の活用に取り組むことができ、ふるさと教育の推進につながった。 ○日本語履修生は、日本語能力向上に対して、高い意識をもって取り組んだ。 ○「高等学校における通級による指導」において、社会性を高める学習に取り組めた。 ▲授業改善と、観点別評価の評価方法や評価規準について教科間で情報共有をより進める必要がある。 	B
<ul style="list-style-type: none"> ・各行事終了後、講師等から高い評価があった。 ・各行事終了後、生徒対象アンケートで肯定的評価が90%を超えた。 ・生徒及び学校関係者アンケートの進路指導に関する項目全てで、肯定的な意見が得られた。 ・御嵩町等との連携により、連携講座の実施は10回以上を達成。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各行事を計画的に行うことができた。 ○行事に対する生徒の取り組みが良好であった。 ○全体指導と個に応じた指導をバランスよく行うことができた。 ▲経済的な理由により、3年次のうちに進学希望から就職希望に変更する生徒が多数出た。 ▲3年間を見据えた進路行事の精選を行う必要がある。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「『あじみ』のできる学校」では、生徒の89%から、また学校関係者の94%から肯定的な意見が得られた。 ・生徒及び学校関係者アンケートの生徒指導に関する項目全てで、肯定的な意見が得られた。 ・地域清掃活動の回数を増やしたこともあり、ボランティア参加生徒の人数が増加した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶励行について大変良好であった。 ○ボランティア活動への参加が良好であった。 ▲時間を守る指導では遅刻が減少しなかった。 ▲身なりを正す指導では服装の乱れがなかなか正されない状況がある。 ▲地域の方々から登下校中のマナーの苦言があった(その都度対応)。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間が月45時間を超える職員数は12月現在、前年比36%減で、50%減までには至らなかったが減少した。 ・教職員によるセンター研修の受講者が延べ63人を数え、前年度と同程度程度の受講があった。また心理士や免許法認定講習会を受講等する職員も複数いた。 ・疲労蓄積度自己診断チェックリストの2回の調査で、総合判定6以上の職員は延べ計2人いた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各職員への声かけや指導を進める中で、時間外勤務時間が月45時間を超える職員数が減少し、80時間を超える職員は0人となった。 ○職員もセンター研修や検定の受験など自己研鑽に努めた。 ▲ストレスチェックやハラスメント調査を行う中で、疲労蓄積度自己診断チェックリストで総合判定6以上の職員を把握することができたが、未然に防げなかった。 	

学校関係者評価

実施日：令和7年1月16日

<ul style="list-style-type: none"> ・「分かる授業」の取り組みについて、教職員の苦労や努力がうかがえ、また成果が良好である。次年度以降もスタディサプリ等を有効に活用し、「分かる授業」の研究を進めてほしい。 ・経済的理由で進学をあきらめる厳しい状況がある。将来の夢が具現化できるよう、より早期からの進路情報提供やキャリア形成を促すような指導にあたってほしい。 ・通級の指導では、相手に自分のことが伝えられることが大切である。指導手法の研究を重ねてほしい。 ・生徒指導では、基本的生活習慣の改善も必要である。毎日の指導を大切に、粘り強い生徒指導に努めてほしい。 ・制服は、今の時代に合っているか、見直しを検討することも考えてほしい。 ・教職員の働き方改革を進め、笑顔で生徒に接することができるようにしてほしい。 ・教職員が中学校の公開授業に多数参加し、交流を深めた。引き続き校種間交流を推進してほしい。
